



編集発行者
千葉大学医学部
みのはな同窓会報編集部
〒260-8670 千葉市中央区玄鼻1-8-1
千葉大学医学部内
みのはな同窓会
電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail : idosokai@med.m.chiba-u.ac.jp
HP : http://www.inohana.jp/

千葉大学医学部同窓会報 第135号 題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元みのはな同窓会長)

新春によせて
医学研究院長
福田 康一郎 (昭41)

明けましておめでとうございませう。みのはな同窓会員の皆様には日頃よりご支援をいただいております。新年にあたりご挨拶を申し上げます。昨年、平成15年は、先ず、21世紀○○○申請準備で年が明けました。医学研究院・附属病院の先生方の大変なご協力により、医学系からは5件が大学から申請され、学長始め学内からも大変なご支援をいただき、その内2件(①消化器扁平上皮癌の最先端多戦略治療拠点・丹沢教授・落合教授を中心に医学研究院・放射線医学総合研究所・千葉県がんセンター)が連携、②日本文化型看護学の創出・国際発信拠点：石垣教授・栗山教授を中心に看護学部・医学研究院・社会文化科学研が連携)が亥鼻地区から採択されました。現在拠点形成のための具体的作業が鋭意進められております。



医学薬学総合研究棟第1期工事新営
(平成15年12月撮影)

蔵文化財の調査により、前方後円墳が出土するなどの話題をよびましたが、順調に進み、平成15年12月にはほぼ完成しました(写真参照)。市内各所からも高台に目立つ建物となり、新年早々に薬学部の一部、遺伝子実験施設(施設長：徳久教授)、遺伝子実験施設と密接に連携した21世紀○○○採択課題等の先端的な研究を推進する各研究領域から選出された部門や寄付講座等の移転が始まります。新しい医薬の連携した大学院教育と各研究室での大きな

成果が期待されています。平成15年の夏から秋にかけては、永らく懸案であった平成16年4月から始まる医師の卒後臨床研修制度に関する最終局面での大きな混乱がありました。3年ほど前より、全国医学部長病院長会議および国立大学医学部長会議・国立大学医学部附属病院長会議として新しい制度発足に向けて、積極的かつ際どい対応を迫られる場面を経験してきました。医学部卒業予定者が希望する研修施設を、大学院を含めた臨床研修病院から選ぶ、いわゆるマッチングが行われました。これまでの大学院における専門的研修中心から、スパー

最終講義のご案内

伊藤 晴夫 教授
日時 平成16年2月18日(水) 午後3時30分
場所 医学部附属病院 第一講堂
演題 「教室における最近の臨床的及び基礎的研究について」
里村 洋一 教授
詳細は附属病院医療情報部にお問い合わせ下さい。
電話 043-2226-2346

第5回みのはな同窓会
学外研究助成決定

2003年度みのはな同窓会学外研究助成は次の3名に決定しました。
浅野 秀文(千葉市立海浜病院、麻酔科、昭59)
「虚血となった臓器が光るマウスの作成―虚血研究のモデル動物を求めて―」
甲賀かをり(武蔵野赤十字病院、生殖内分泌学、平8)
「妊娠中毒症発症予知マーカーの確立にむけての研究」
吉山 容正(国立療養所千葉東病院、神経内科、北海道大昭61)
「神経変性疾患(タウオパチー)モデルマウス解析と疾患の病態機序の解明」

ローテイト方式に研修内容が切り替わり、さらに病床数から換算した採用可能な研修医数に制限がはめられたことなどから、大学院で研修を希望する者が少なくなりました。全国的な趨勢として国立大学院における研修医は大幅に減少しました。最後までもめた研修医・指導体制等への補助等の処遇については、昨年暮れの押し迫った段階でようやく厚生労働省および文部科学省からの概算要求が相当規模で一般財源から確保されることになりました。大きな混乱は避けられましたが、今後、大学における人材育成のためには、卒前教育・卒後研修・大学における専門研修・大学院進学者等を連動させた魅力ある体制作りが必要であり、医学研究院・附属病院が一体となって改革に向けて努力する必要があります。

昨年から、国立大学法人法案が成立したこともあり、法人化に向けた大学全体および医学研究院・附属病院の対応が具体化してきました。今後6年間の大学全体および各部署の中期目標・計画が提出されました(本学を含めた各国立大学の中期目標・計画の素案は文部科学省のホームページから見ることができます。http://www.next.go.jp/a_menu/koutou/houjin/index.htm)。今回の国立

大学法人化は行政改革の一端としてスタートしており、教育・研究にあっても効率化の観点からの予算削減が根底にあることを、先ず認識しておくことが肝要です。早くも一部予算の削減が通知されています。民営化も先に控えているとの論点も真実味を帯びています。法人化後は、非公務員になること(労働基準法、労働組合法、労働安全衛生法等の適用を受ける)、運営費交付金として一括して大学全体に予算が交付されること、大学における教職員の定員数に基づく人件費の大半がなくなるため人件費の取り扱いや人事計画が焦点となること、従来の評議会の権

限がほとんどなくなり、学長・理事を中心とする役員会の権限が圧倒的に強くなること、中期計画の達成度が評価されて運営費交付金に反映されることなどが特徴です。従って、これまでの部局単位のバランス中心で、外部評価が不十分のまま、従来の踏襲で済んできた体制を根本から見直さなければならぬ状況です。これらについては大学全体の新たな組織構成を早急に具体化する必要に迫られています。

医学研究院としては、かなり早い段階から既に従来の教授会運営を効率化することを始めており、中央経費削減計画の立案を進め、教育・研究・診療・地域学外協力分野での責任分担制と一定期間ごとの業績の審査制導入が承認され、現在具体的な計画段階に入っています。これらは法人化を契機に、医学研究院と附属病院の優れた人材を、従来の講座単位の閉鎖的な教育研究体制から脱却して新たに組織化して能力を発揮していただくための方策です。人事の流動化も視野に入っています。教育については、学生にとって魅力あるシステムにすることが重要であり、入試から卒業までを一貫してサポートし、実力ある医師養成課程を構築する必要があります。研究に関しては、時代にマッチした社会から要請される領域についての特色ある研究の拠点化・グループ化を進めています。その一つが21世紀の採択課題です。寄付講座の積極的受け入れや、国の求めに応じて社会精神医学教育研究センターの設置への準備研究、環境健康科学関連への進出、さらにバイオテロ対策の教育研究拠点化を目指しています。

学内のフロンティアメディカル工学研究センター(西千葉地区)や環境健康フィールド科学センター(柏地区)への全面的な協力も進んでいます。診療に関しては藤澤病院長を中心に附属病院診療科の再編を軸に鋭意検討されているところであり、別途、状況説明があると思えます。地域学外協力については、積極的に学外機関との連携や外部資金導入を目指した取り組みがスタートできるよう計画しています。また、大学が外に向かって活動できる大きな窓口として「むのはな同窓会」とも緊密に連携できる方策を学内理事の先生方に先導していただいております。いくつかの新しい取り組みが始ま

ております。大学が社会から孤立していた状況や大学からの情報発信が極めて少なかったことを反省し、先ず意見交換する場を多く設けて協力基盤を形成することから始めたいと考えております。

「むのはな同窓会」の諸

群馬大学学長 就任にあたって

鈴木 守(昭39)



平成十五年十月九日の群馬大学の評議会決定により小職が十二月十六日から赤岩英夫現学長を引き継いで群馬大学学長の任を拝命する運びとなりました。群馬に参りまして思わず知らず二十七年の歳月が経ちましたので、町の中に買い物にたりすると、大学とは無縁と思われる方々からも「このたびはおめでとうございませう」と挨拶を受け

先輩におかれましては、医学研究院・附属病院への忌憚のないご意見をお寄せいただき、ご指導・ご鞭撻・ご協力をたまりたくよろしくお願い申し上げます。皆様のご健康と一層のご発展をお祈り申し上げます。

おめでとうの後に、「大変ですね、お体に気をつけてください」との暖かい言葉も続きます。国立大学が法人化すると、これからのどのような局面が待っているのか、走り出して見ないと判らない面が多いのは確かです。しばらく前に新しい大画像をイメージして競争的環境の中で個性輝く大学というスローガンが掲げられたことがありました。個性は、現在とても大切なことであり、競争的」という言葉には私個人としては少々抵抗があります。優れた研究者を「この方は

大変アグレッシヴに仕事をしている」と紹介することがありますが、このアグレッシヴという表現にも私はとまどいを覚えます。研究所であればいざ知らず、各自の研究を中核において学生(大学院生を含む)を教育し、その教育を基に次代の社会を創生すべき使命をおびた大学は、はたして「競争」「アグレッシヴ」またはこれに類する表現を活性の最上級の形容詞としてよいのでしょうか。確かに大学は競争から身を引いていることはできませんし、精神的に仕事を進める環境を皆で作りに出していかなければなりません。しかし、大学がその事を中心におき、本質と考えて身をやつていくとすると、大学の使命の本質を見失う危険があります。

最近、美術の黒田教授から数学者の岡潔先生の残されたエッセイ集をいただき読み、岡潔教授が生涯を通じて大学は、「真」「善」「美」を追究する場所であることを主張されたことを知りました。「大学は、知を創造し、蓄積し、社会に伝達する使命がある」「現在の大学は economy-based society や knowledge-based society にパラダイム変換させる使命をおびている」「したがって大学は現代社会に説得力をもった骨太い倫理を確立させなければならぬ」私が医学部長を拝命している時、医学部をいわゆる大学院化させる時に訴えた理念ですが、最も大切なことはそのような使命を達成しようという高き志です。人間の永遠のテーマである「真」「善」「美」の追求によってこそ志は常に新たに生まれ高められ、鼓舞され続けるのだ、といったら「相変わらず青過ぎる」と冷笑をかうことになりかねません。しかし、平成十五年度からスタートとなった群馬大学医学系研究科にあって「ethics is science, skill」の中心をなす理念として高ら

かに掲げられました。医学哲学・倫理学専攻分野が専任教授を迎えて開設され大学院生も何人か受け入れられています。私は大学の本質の理念を具体的に生かしてくれた群馬大学を心から誇りに思い、どんな時代にあり、どんな制度の許でも大学に在る以上、大学の本質を追求し、それを実践する努力は継続しなければならぬと考えます。四十年以上も前に学生時代を過ごしていた私達に大学のあるべき姿を身をもって教えて下さった今は亡き恩師の先生方を想い、母校千葉大学から私と志を同じくされる群馬大学を応援し、励まして下さることを信じて、今後の務めに邁進したいと思えます。

紙面紹介

就任挨拶	2〜3面	学余余聞	7面
附属病院ニュース	3面	各地のむのはな会だより	
人事異動	3面	クラス会	8〜10面
筒井秀二郎先生の肖像画に寄せて	4面	セミナー事業試行アンケート集計結果	10〜15面
校友会定期総会開催	4面	むのはな美術展開催	15〜16面
同窓会員著書の紹介	4面	常任理事会議事要旨	17面
10年ぶり亥鼻祭開催	5〜6面		
追悼文	6面	随想	17〜18面
	7面		18面

教授就任挨拶

神経生物学(旧解剖学第三講座)

山下俊英(大阪大平2)



本年11月1日付で千葉大学の神経生物学教室を担当させていただくことになりました。私は平成2年に大阪大学医学部を卒業後、脳神経外科に入局し、臨床研修を4年間行いました。その後に大学院に入学し、ポストゲノム疾患解析学講座において研究を続けてまいりました。

現在の私の研究テーマは中枢神経の再生であります。大人の脳・脊髄が一旦損傷され、神経脱落症状が出現すると、通常は回復しませんが、その原因の一つとして、中枢には損傷された神経ネットワークの再生を阻害している物質があるということが古くからわかっています。それらの物質がどのように神経細胞に働きかけているかというのが、私の研

も本学の発展に貢献していたらと切望しており、最大限努力してまいれる所存であります。

さらに教育の点でも、学生が神経科学に興味をもって学んでいけるように、そしてその中から神経科学の

附属病院ニュース

病院長 藤澤武彦(昭42)

医学部附属病院の主な出来事(H15・7〜H15・11)

○平成15年7月22日
病院連携推進委員会

他の医療機関等との医師の人事に関する課題について、本院においても医師紹介要請の対応窓口を病院長に一本化し、医師人事の検討・調整を行うことを目的とした「病院連携推進委員会」を設置した。

○平成15年9月2日
防災訓練

東京直下型地震の発生を想定した地震災害訓練を実施した。午後2時「震度6強の地震発生」との放送と共に、病院長を本部長とする防災対策本部を防災センターに設置、本番さながらの緊張の中、情報伝達訓練及び被害回復訓練を行った。

研究を支えていく人材が育っていけばと願っております。はなはだ力不足でありますので、同窓会の先生方の御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

○平成15年9月26日
医療事故防止セミナー

医療事故防止の一環として、医療事故防止セミナーを開催した。今回のセミナーでは、九州大学大学院医学研究院助教鮎澤純子先生を講師としてお招きし、「これからのリスクマネジメントを考える」と題して講演が行われた。

○平成15年10月20日
寄贈物品の受入

千葉県あのはな会より、感染症管理治療部に①モバイルアイソレーター簡易隔離システム②人工呼吸器ニューポートベンチレーターEUSのブリーズが寄贈された。

○平成15年10月31日
院内コンサート

恒例の院内コンサート。今回は石井陽子氏によるソ

プラノリサイタルが行われ、素敵な歌声に多数の患者様が参加され、楽しい一時を過ごした。

○平成15年11月4日〜5日
いけばな展

患者様サービスの一環として「花とやすらぎ」をテーマに「職員によるいけばな展」を開催した。会場となった外来ホール棟2階は、病院長をはじめとする職員有志による季節感あふれる作品が展示され、病院であることを忘れてしまうほどの華やかな雰囲気包まれた。

○平成15年11月12日
禁煙セミナー

喫煙対策の一環として、職員を対象として禁煙セミナー「禁煙支援アプローチ法」を開催した。今回は総合診療部の金医師を講師に、無理なく禁煙を達成するための医師の支援手法について講義が行われた。参加者たちは、タバコによる健康被害の実態や喫煙者への適切な支援方法等について、豊富な事例を示されながらの講演に熱心に耳を傾けていた。

○平成15年11月14日
オーストラリアGP教育及

びクリニカルカンファレンス
平成15年度千葉大学医学部附属病院卒後臨床研修カリキュラムの一環として、研修医教育を行うため、Dr. ジャニス・ベル、Dr. モートン・ローリンの両氏を講師に招き、オーストラリアGP教育及びクリニカルカンファレンスを開催した。

○平成15年11月15日〜22日
看護職員のオーストラリア視察研修

千葉大学医学部附属病院では、昨年度に引き続き看護職員による海外研修を実施した。この研修は、諸外国の先進的な医療と看護技術を視察し、その成果を本院での業務に反映させることを目的として実施している。

るものである。今年度は、オーストラリアにおける医療システムや先進医療を支える看護について実地視察及び研修を行った。

○平成15年11月28日〜29日
卒後臨床研修指導医養成ワークショップ

平成16年度からの卒後臨床研修必修化において、新たに導入される千葉大学医学部附属病院卒後臨床研修プログラムを実践するにあたり、研修プログラムを理解し、その実践法の修得を通して大学院並びに研修協力病院の指導医の指導能力を一層向上させることを目的として指導医養成ワークショップを海外職業訓練協会(OVTA)を会場として開催した。

人事異動

教授就任

神経生物学(旧解剖学第三) 山下俊英(大阪大平2)

(大阪大学大学院 医学系研究科助教 より)

助教昇任

神経病態学(旧神経内科学) 新井 公人(金沢大昭55)

(神経内科学講師より)

胸部外科学 飯笹 俊彦(群馬大昭59)

(同講師より) 先端応用外科学(旧外科学第二) 祥雄(昭54)

講師昇任

眼科 次郎 (浜松医大昭62)

呼吸器外科 澁谷 潔 (同助手より)

他大学 教授就任 埼玉医科大学 循環器内科部門 小宮山伸之(昭58)

(千葉大冠動脈疾患治療部講師より)

筒井秀二郎先生の肖像画に寄せて

井 出 源四郎 (昭19)



先生の偉大な業績と共に会場に掲げさせていただいたものであったからである。そこで教室の皆さんと相談の結果、8月4日千葉在住の御遺族お三方と教室側代表四人のご出席を得て「寄贈の宴」を催した次第である。さて筒井先生のご経歴、御業績、お人柄等について述べることになるが、それに就いては前記の記念展示会に際して、私の恩師滝沢延次郎先生の編纂になる「筒井秀二郎先生発癌五十年記念集」の序文にその詳細が卓越した筆致で記されている。紙面の都合でその全文をここに掲載出来ないが、失礼を顧みず、その要点について抜粋して記させて頂くこととする。

筒井秀二郎先生は慶応2年(一八六六年)5月26日京都で生まれ、明治19年(一八八六年)東京帝国大学医学部を卒業、翌20年私費で欧州に留学。ドイツでは近代病理学の基礎をうち立てられたウィルヒョウ教授に師事。23年帰国。直ちに千葉大学の前身である第一高等中学校教諭に就任し、その後初めて病理学の主任教授となられ、草創期の医学教育と特に病理形態学並びに臨床病理学の必要性を強く提唱されました。

昨年初夏のある日、私は年来の知友金澤務氏(筒井先生の孫娘晴枝様の夫)から突然お電話を頂いた。その内容は筒井家のお座敷に掲げられていた筒井秀二郎先生の肖像画(油彩20号。吉田 博画伯筆)(写真)を千葉大学医学部病理学教室に寄贈したいとの申出であった。私はその時一瞬びっくりした。

実はこの肖像画は八十数年の間筒井家の家宝として温存されてきたもので、ご近所のお付き合いから私が先生のご子息 故筒井敏夫氏のお宅に伺う度にいつも拝見し、素晴らしい作品と思っていたもので、隅々今から三十五年前昭和43年10月、筒井秀二郎先生発癌実験五十周年の日本癌学会総会に於ける記念特別展示会に際し、これを借用して、

序・今年(昭和43年)は千葉大学医学部の前身である千葉医学専門学校(昭和7年)マウスの皮膚にコー

発表されたコルタール塗布によるマウスの皮膚癌の発生という画期的な業績は先生の恩師であるウィルヒョウ教授の発癌の刺戟説を裏付ける偉業で、その三年前に発表された東京帝国大学の山極勝三郎先生の兎の耳へのコルタール塗布による皮膚癌発生という極めて困難な部位における発癌である点に不滅の価値が認められるのに対して、筒井先生の業績はマウスの背に極めて容易に癌を発生せしめる方法としてその後英国のケンナウェイ一派のベンツピレンを初めとする多数の癌原性物質発見の大業績の端緒を開き、その後数十年今日まで(今年は先生の発癌実験の発表以来八十五年)筒井氏法として、全世界の発癌制癌の癌研究者に計り知れない寄与を提供し、世界で初めて人工的に癌を作ったという不滅の大業績として高く評価すべきものと考えます。時あらば山極先生の業績とともに当然ノーベル賞受賞に値するものであったでしょう。

筒井先生は寡黙謹厳、従容不迫のお人柄で子弟の教育には高い見識を以て臨まれ、又内に温情を湛えた指導をなされ、当時の医学生の尊敬的でありました。

又俳句は正岡子規の門に入り、姓の筒を二つに分けて竹桐と号し、謡曲は梅若万三郎師の流れを汲み、又漢詩を作っては蕉雨と号し絵も好んで画かれた趣味の広い方でもありました。

筒井先生より十年ほど後輩であられるわけで、先生のご肖像は従って大正初期の画伯四十才の頃の最も油ののっておられた作品かと考えられる。

またこの肖像画をお描きになった画家吉田博氏のことに就いては金沢氏からいただいた画伯の伝記によると、一八七六年(明治9年)久留米市の名家に生を受けられ、若くして画業を志し、欧米から始まり、韓国、中国、印度等何回となく世界中を経廻り、素より日本国内の各地を写生旅行をされ、千点を越える名画を描き続け、黒田清輝、藤島武二、中村不折、石井柏亭といった近代日本画壇の先駆者として肩を並べ、画会の長老として明治、大正、昭和の三代に亘って活躍し、昭和25年4月5日七十三才で永眠された屈指の芸術家で、殊に特筆すべきは四十才から手がけられたわが国に於ける近代版画の創始者でもあり、永い間文展審査員を勤め多くの作品が宮内庁を始め文部省等に御用品として納められているとのことである。

筒井先生よりは十年ほど後輩であられるわけで、先生のご肖像は従って大正初期の画伯四十才の頃の最も油ののっておられた作品かと考えられる。

さて私がこのような記事を書く気になったのは、少なくとも千葉大学に学んだ同窓の方々に、筒井秀二郎先生と言う偉大な先覚者が居られたという誇りを記憶しておいて欲しいと思ったからであり、そして私自身この本学病理学教室に長い間学ばせていただいた者の一人として、この記録を書き止める責任があると感じたからである。

出来得べくんば、先生のこの肖像画と共に先生の業績の記録を亥鼻台医学部の何処にか(例えば図書館の一隅に)掲額して若き学生諸君を始め何びとでも、これを眺めて先人の偉業を偲ぶことが出来ればと思っただけである。

平成15年度
千葉大学校友会
定期総会を開催

平成15年度の千葉大学校友会(会長：磯野可一千葉大学長)定期総会が10月4日(土)千葉市内のホテルにおいて開催されました。校友会は、これまでの各学部を基本とした縦の絆に加え横の絆を強化した全学同窓会として、千葉大学及び各学部同窓会の発展に寄与するとともに、会員相互の親睦・情報交換を図り、併せて社会に貢献することを目的として平成14年3月に設立されたものです。総会には、各学部同窓会員、千葉大学教職員のほか留学生として本学で学んだ者など30名余りの会員が出席しました。

同窓会員著書の紹介

森崎信尋(昭50)著

「平成瞑想録」



平成瞑想録は平成徒然草、平成随想録に続く森崎信尋君の第三の「学際エッセイ集」である。そこには、音楽、文学、哲学、宗教といった様々な分野の古今東西の人間とその活動が医科学者の眼を通して解析され、極めて知的刺激に富む切り口で提示されている。例えば、ソクラテスの徹頭徹尾論理的な思考を支えているものは実は感性から繰り出されたデモーニッシュな衝動ではないか、マルクスの資本論の根幹である労働価値説は証明されていない公理(直感)のみに基づいているのではないか、等々である。エッセイという自由なジャンルに書かれた彼自身の世界観、哲学の発露であり、ある意味では文明批評である。

文芸社 定価100円
横須賀収(昭50)

森崎君は、昔から何事も既成概念に捕らわれずに、素直に事実を見据えて辛口の批評をする人であったが、この著書でもその立場が貫かれている。旧第二内科で齊藤康教授のもとで百二十余りの英文論文を含む多くの論文を書き、また平滑筋細胞学、分子動脈硬化学といった著書の編者でもある彼が、ある日突然大学での研究から離れてしまったと聞いた時には、啞然とし、不思議に思ったものであるが、彼のエッセイ集を読んだ時にその謎が氷解したのだった。これは全く私の想像であるが、彼はある時自己の死に直面する事態を迎えたのではなからうか。そして、このまま専門性の中に過ごしていたのでは、人間と世界へ根源から迫るには物理的時間が足りない、という危機感を抱き、翻然として転進したのではないかとと思われるのである。私自身は日常の仕事にかけ、最近ではまともに読

書もしていない者であり、このような読後評を書くのはおこがましい限りであるが、このエッセイ集を一読して感銘させられ、この読後感を多くの方々に分かち合ってもらいたいと切に望

鎌田慶市郎(群馬大昭35)著

「明解傷寒論」



書評に代えて

医道の日本社 定価450円
高野光司(昭33)

鎌田慶市郎氏から本書が送られて来た。「東洋医学研究会の大先輩として、書評を千葉医学会雑誌に書くように」という依頼があった。なるほど私は、和田正系(大11)、藤平健(昭15)小倉重成(昭17)鍋谷欣市(昭27)の各氏、下っては、寺沢捷年氏(昭45)その他多数の日本の東洋医学会を背負って立つ人々のいた(いる)東医研に属していた、と言えなくはない。

葛ティンゲンに来てしまったので、実力は限りなくゼロに近い。占領軍に禁止されて、警察だけに許されていた剣道場に通って、打ちのめされて、ゐのはな坂を這うようにして帰ってきたり、サッカー部のまだない頃、ボールを蹴飛ばしていた。途中から入ったテニス部では選手になる見込みはどうていなかったが、同級のなかでは六番目のピリに早く追い付こうと壁に向かって懸命に練習した。だから、夕方五時か六時に始まる、当時国立大学医学部唯一の東洋医学自由講座には、出席はしても居眠りをしてしまうという、いわば東医研の落第生であった。

偶然千葉駅で藤平先生にお目にかかり、東京までお供をした。その後、藤平先生が、何冊もの著書をドイツまで送って下さったので、少しは漢方の勉強をするようになった。といっても、畳の上の水練に近い。帰国の折に何度か先生の診察を拝見した。

北里大学東洋医学研究所の安井広迪氏、九州大/福岡大の向野義人教授、北京の国立研究所の高教授など東洋医学の実力者たちが、私の研究室に留学してくれたので、漢方に接する機会も増え、いくつかの薬の証も、いくらかわかり、その薬効に驚嘆した。藤平先生の弟子の末席を汚すといったら、亡き先生にお叱りを受けるかもしれない。さて、鎌田慶市郎氏は、一九六〇年に耳鼻咽喉科に入局。北村武先生に師事しながら、私より一五年程、おかれて藤平先生のお弟子になった。一九九〇年には松下嘉一氏(昭36)と共著で「アレルギー性鼻炎の漢方治療」という立派な本を出版。さらに、藤平先生の監修で「漢方古方用語辞典」を出された。このように、鎌田氏は藤平健先生の高弟なのである。東医研の落第生が、優等生かつ藤平先生

の高弟の著書の批評など、おこがましい。「岡目八目」というから、八目なら批評もできよう。だが彼と私の差は百目である。「千葉医学会雑誌」というレッキとした学術雑誌に、書評を書く資格はない。だから、本欄も「書評に代えて」としていただいた。

鎌田君(と呼ばせていた)が千葉大学の教養課程の二年、私が専門の二年の時、一緒にドイツ語の勉強をした。夏休みには、東北の山奥の電灯もない温泉宿を巡りながら勉強することにした。田沢湖畔の最初の宿にだけ電灯があった。鎌田君の靴がこわれたので早起きをして、往復40kmの雫石まで、運動靴だったか地下足袋を買いにいったこともある。シュトルムの「ザンクト・ユルゲンにて」だったろうか、「ここまで読んでおけよ」と言いおいて、一人で岩手山にも登った。

あの山旅の後遺症だったら嬉しい。郵便を開いて、第一の印象は、これは、古今東西を通じて、もっとも美しい傷寒論の本であろうということだった。本の表紙、中の挿し絵はご夫人による。クチナシ、アケビ、オケラなど、庭で育てたものなどという。本書は、藤平先生の師奥田鎌蔵の「傷寒論講義」が基本である。本書の出版により、鎌田慶市郎氏は、千葉県医師会学術奨励賞を再度受賞されている。この本の出版に際してか、「漢方療法」という雑誌は特別企画、鎌田氏とのインタビューに、八ページをさいた。

この本は、私の漢方の先生になるだろう。

祝 叙 勲

- 平成14年 秋の叙勲 勲四等瑞宝章 児島 三郎(昭24)
- 平成15年 秋の叙勲 瑞宝重光章 山崎 修道(昭36)
- 旭日双光章 佐藤 忠夫(昭29)
- 瑞宝双光章 柿栖 米夫(専23)
- 塚本 勉(昭28)

浜崎智仁 著

「コレステロールは高いほうが長生きする」

千丸出版社 定価180円
浜崎智仁 (昭46)



筆者は今まで、コレステロールは低い方がよいと考えていた。患者さんに必死になってコレステロールを低下させることがいかに重要かを説得し、コレステロール低下薬のエースであるスタチン類をかなり処方していた。スタチンの販売促進のお手伝いすらした。一九九四年ランセットに発表された、シンバスタチンによる二次予防で総死亡率が30%低下した報告を知ったときは、自分の信じていたものが正しかったと喜んだ人間である。

しかし日本での大型疫学調査をよく調べると、総コレステロール値200-260mg/dl前後で総死亡率が一番低い(特に男性)。このことは、240-260の人をスタチン類で治療すると、一番死にくい人を治療することにつながる。一番死

にくい人は、一番治療しなくていい人のはずである。また、スタチン服用者の半数を占める女性の一次予防では未だかつてスタチンの有効性が証明されていない。効かないことが証明されていると言った方がむしろ正しい。これらの無駄を省けば医療費だけで二千億円以上の削減が可能だ。

この本は常識への挑戦である。ところが、近々、読売新聞医療情報部田中秀一氏が多くの研究者等より綿密に取材したデータを基に、コレステロールに関して似たような内容の本が出版されることになった。ひょっとすると常識が変わるかも知れない。スタチン類を処方している医師は是非どちらかの本をぜひ一読願いたい。

なお本書では、各章のサマリーを読むだけで(約10分)問題点が全て理解できるようにになっている。

宮治 誠 (昭38) 著

「カビと共に40年」

宮治誠教授退職官祝賀会
実行委員会 非売品



安達恵美子 (昭37) 著
「眼に効く眼の話」
小学館 定価180円



お知らせ

あのはな同窓会事務局では、卒業年次別クラス名簿リスト、地域別会員リストおよび郵送用住所ラベル等ご希望により作成いたします。詳細は同窓会事務室にお問い合わせ下さい。

電話
043-202-3750

10年ぶり「亥鼻祭」を開催!!

2003年度 千葉大学亥鼻祭実行委員会
実行委員長 医学部4年 吉村 健佑

今年度、亥鼻祭実行委員長を務めました医学部4年吉村健佑と申します。今回はあのはな同窓会報の紙面をお借りし、10年ぶりに開催致しました亥鼻祭について、あのはな同窓会の皆様へご報告いたします。

今年度の亥鼻祭は11月2日(日)・3日(祝)に行われました。秋晴れの空の下、2日間で500人を超える来場者がありました。学生、受験生、地域の方々をはじめ、多くの卒業生の先生方も亥鼻の丘を訪れて下さいました。学生が準備に励んできた数多くの企画が次々に展開され、亥鼻キャンパスが10年ぶりに活気付きました。

メインの企画の一つであった、「シンポジウム：医療者のライフワーク」では、70名以上の観客が医学部記念講堂に詰めかけ、柳田邦男先生・山崎章郎先生・渡辺裕子先生の講演・鼎談を熱心に聴いており、とても盛会に終わりました。健康食レストランや健康チェックを内容とした「発掘!あのはな大辞典」でも多くの方々

護学部の子生の中にも来年度に向けて意欲を示している者も多数あり、今後が楽しみにになりました。亥鼻祭が再び千葉大の誇るべき催しの一つとなることを願っています。

しかし、学生の努力だけで今回の成果をあげられた訳ではありません。あのはな同窓会様をはじめ、本当に沢山の先輩方が、私達学生に「挑戦するチャンス」を与えてくださいました。千葉大の歴史の深さ、そして

今後の参考とさせて頂きますので、亥鼻祭に対するご意見・感想を以下の連絡先までお送り下さい。よろしくお願致します。

Kensuke@511@m3.dion.ne.jp



委員一同 正門に作られた特設ゲート前にて

本田良行先生を偲んで

福田 康一郎 (昭41)



千葉大学名誉教授本田良行先生には、去る平成15年8月1日、ご自宅にて急逝されました。享年77歳でした。先生のご遺志とご家族のご希望で葬儀、告別式ともご親族のみにて執り行われました。

本田先生は、大正15年6月、富山県砺波市にご誕生になり、昭和20年には旧海軍兵学校を卒業されました。終戦後の混乱の中、翻然大悟されて旧制金沢医科大学(現金沢大学医学部)に進まれ、昭和25年同大学を卒業されました。昭和26年には金沢大学医学部附属病院でインターンを修了され、石川県厚生農業組合連合会加賀東病院に勤務された後、昭和28年金沢大学医学部助手(生理学講座、主任斎藤幸一郎教授)となり、血液の酸塩基平衡と呼吸調節に関する研究を開始されまし

た。昭和31年には金沢大学医学部助教授(生理学)に昇任され、昭和37年から39年まで呼吸調節の研究のためオランダ・ナイメーゲン大学生理学教室クローツァー教授のもとに留学されました。昭和49年には千葉大学教授(医学部)に昇任され、以来平成4年3月に千葉大学を定年退官されるまでの18年間にわたり、千葉大学医学部生理学第2講座(現自律機能生理学分野)の主任教授として、植物性機能生理学の講義・実習を担当されました。この間、本学肺病研究施設各部門、麻酔学教室等の臨床各科と連携して呼吸生理学の研究を推進され、多くの大学院生・研究生等の後進の指導にも多大の功績をあげられました。

する換気反応が減弱しているばかりでなく、運動時の換気亢進も低下していることを世界で始めて報告されました。本学に赴任後も、米国カリフォルニア大学、ドイツ・ルール大学、英国・オックスフォード大学等との多数の国際共同研究を遂行されました。平成3年には国際的な呼吸生理学者の集いであるオックスフォードカンファレンス(呼吸調節とその理論モデルについての国際会議)第5回大会を日本において主催されました。本田先生は、国内外の呼吸関連の基礎・臨床の先生方との交流も活発であり、我が国を代表する呼吸生理学者として活躍されました。本田先生は多数の原著英文論文を外国誌に発表されており、本学退官時にまとまられた英文原著業績集「Regulation of Blood Gas and Ventilation? Collected Papers of Dr. Y. Honda (1957-1992)」は、求めに応じて諸外国の多数の呼吸生理学研究者にも配布されました。また、著書として「酸塩基平衡の基礎と臨床Ⅰ、Ⅱ(編集・分担)」、「臨床呼吸生理学Ⅰ、Ⅱ(編集・分担)」、「肺と心機能の基礎と臨床Ⅰ、Ⅱ(編集・分担)」、「現代の生

理学(編集・分担)」、「新生理科学体系Ⅷ呼吸の生理学(編集・分担)」等が有名であります。千葉大学においては、千葉大学動物実験施設長、千葉大学評議員、千葉大学附属図書館亥鼻分館長をつとめられました。日本生理学会にあっては、常任幹事、欧文機関誌「Japanese Journal of Physiology」の呼吸生理学分野の編集委員、同編集委員長の重責を担われ、同誌の国際誌としての発展に多大の尽力をされました。昭和63年には本間三郎千葉大学名誉教授とともに当番幹事として第64回日本生理学会大会を主催されました。定年退官後、永年のご業績に対して千葉大学名誉教授の称号を授与されました。また、平成11年には日本生理学会の特別会員に推挙されました。ご退官後も広く基礎・臨床の呼吸生理学・応用生理学の分野で後進の育成ならびに生理学の教育・研究の指導に熱意をもって邁進されておられました。先生のヒトの呼吸生理、とくに呼吸調節機序解明への興味は尽きることなく、最後まで研究者としての情熱を注がれておられました。ここに本田良行先生が歩んでこられた呼吸生理学研

究者としての足跡に敬意を表すとともに、ご逝去を悼み、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

学会余聞

平成15年度関東甲信越医師会連合会・医師会共同利用施設分科会が平成15年8月30日水戸プラザホテルで開催された。全体協議会の

中でのイベント、シンポジウムに於いて、4人中3人が本学出身者で、珍らしい顔合わせの写真も撮られたので報告する。

シンポジウムのテーマは「医師会共同利用施設の医療における役割」で、そのシンポジストは、上村公平安房医師会病院院長(昭50・安房医師会病院の運営状況と問題点)・佐野千寿子船橋市医師会理事(昭50・船



橋市医師会における船橋市立医療センターとの病診連携の変遷)・石川詔雄筑波メデイカルセンター病院長(昭47・地域医療支援病院における医療従事者のための研修について)の3氏が、おのおの立場で所属する病院の役割を發表された。写真は、その後の懇親会で、偶然千葉大学出身者が集まったので写したものである。右から、藤

森宗徳千葉県医師会会長(昭37)、上村公平院長、中田義隆筑波メデイカルセンター長(昭36)、青木謹千葉県医師会代議員会議長(昭36)、三井静山梨県医師会理事(昭38)、石川詔雄院長、稲毛博美佐野医師会病院理事(昭50)である。その他、当日、中川利男千葉県医師会理事(昭42)も出席していた。青木 謹 (昭36)

おくやみ

- 島 政信 (昭9)
- 市川 豊一 (昭10)
- 上野 元男 (昭12)
- 菅井規矩雄 (昭12)
- 麻尾 健一 (昭和医専13)
- 大島 璉 (昭17)
- 橋本 五郎 (昭18)
- 久門 勝夫 (昭19)
- 鈴木 恒安 (昭23)
- 寺田 俊郎 (昭23)
- 長谷川公之 (昭23)
- 坂 正紀 (昭23)
- 松下 幸二 (昭23)
- 角江 哲雄 (昭23)
- 尾立 源二 (昭24)
- 鈴木 英世 (昭24)
- 関野 康男 (昭25)
- 関谷 仁彦 (昭26)
- 松崎 功 (昭大昭30)
- 秋本 宏 (岩手医大昭39)
- 村山 正昭 (昭45)
- 増田 純男 (昭55)

各地のあな会 だより

神奈川のあな会

平成15年7月13日(土)
ホテルリッチ横浜にて、平成15年度神奈川のあな会総会が開催されました。

富田裕会長挨拶に次いで、特別講演演者、鈴木信夫先生(昭47 環境影響生化学教授 あのはな同窓会理事) 来賓、千葉あのはな会会長大浜博利先生(昭27・小児科) 東京あのはな会会長小幡裕先生(昭28・内科) 静岡あのはな会会長佐藤通先生(昭35・胃腸外科) が紹介されました。

そして、物故者雨宮邦彦先生(昭51) 横井鐘爾先生(昭20) 坂正紀先生(昭23) 鷹野悦三先生(昭26) の紹介及び黙祷の後、議事に入りました。

平成14年度庶務報告、決算報告、平成15年度予算案が全員の拍手にて承認されました。

来賓のお三方のご挨拶に続いて鈴木信夫先生の特別講演となりました。「大学の改革・同窓会が目指すところ―その一案―」という

題でお話し頂きました。大

学の改革について色々お話をあつた中、同窓会を株式会社にするという話、目点になる程の驚きでした。

間に全員の記念写真の撮影をばさんで、懇親会に移りました。

懇親会には毎年神奈川出身の千葉大学在学中の学生さんを招待していますが、今年6名の学生さんが出席してくれまして、総勢57名で、和気藹々賑やかにパーティーが行われました。

尚、毎年この総会に合わせて、会報「あのはなかわ」(鈴木信夫先生にも頂いた本会自慢の会報です)を発行し、参会者の皆様にお持ち帰り頂き、さらなる情報交換と親睦を深めるようにしています。また来年の総会にも多数ご出席下さいますようお願いしております。



(森 豊)

埼玉県支部総会

あのはな同窓会埼玉県支部の総会は、毎年8月下旬に県内3ヶ所を回り持で開催されているが、平成15年は県北の熊谷市が担当となり8月24日の日曜日に催された。

開催日を日曜日にするか

土曜日にするかは例年甲論乙駁のあるところだが、今回は幹事が有無を言わずに日曜日案を押し通し、出足が懸念されたが、案に相違して予想外の結果となり、懇親会の出席者数は過去最高と思われる60名に達し、幹事一同うれしい悲鳴を上げて頭を抱える状態であった。

総会は午後3時、栃木亮太郎君(昭40)の司会で始

まり、最初に6名の物故会員千代倉俊夫(昭15)、古屋文弘(専18)、山崎(河野)保久(昭29)、興村圭一(昭21)、井村价雄(昭37)、鎌田昌彌(専25)の先生方に30秒の黙祷を捧げたあと、井上幸万支部長(昭27)の挨拶、会計報告と続き、阪信監事(昭35)の監査報告があったあと、田口勝副支部長(昭34)から喜寿・叙勲・受賞の10名の先生方にそれぞれお祝いを贈呈した。その先生方は

- ・喜 寿
- 井上幸万 先生(昭27)
- 島田恒郎 先生(昭27)
- 四家正一郎先生(昭26)
- 石井哲也 先生(専24)
- 有田文章 先生(昭27)
- 石川栄一 先生(昭26)
- 中島 顕 先生(昭26)
- ・受 賞
- 高橋 康 先生(昭30)



(森 豊)

信州のあな会総会

あのはな同窓会賞功労賞

北川定謙先生(昭31、勲二等瑞宝章)

伊藤敏夫先生(昭30、勲五等双光旭日章)

で、心よりお祝い申し上げます。受賞者を代表して、四家先生と島田先生が謝辞を述べられた。

続いて阪先生が本部報告をされ、総会は滞りなく終了し、記念撮影のあと講演会に移った。今年の講師は大学から落合武徳教授(昭41)をお迎えした。教授は旧称第二外科教授だが、今は大学院医学研究先端応用外科教授という肩書をお持ちで、おられ、「国立大学行政法人化と診療科再編」というテーマで講演された。



(冠木徹彦)

るということは大層喜ばしいことで、大いに歓迎するところであり、今後もぜひ続けて欲しいものである。宴たけなわのところ、次回開催地の大宮地区の幹事、松山迪也先生(昭35)が歓迎の挨拶をされ、吉川廣和副支部長(昭40)が閉会の辞を述べ、本年度の総会は盛会の内に閉幕した。

平成15年7月5日(土)長野市にて会長熊谷信夫先生のもと3年ぶりに開催された。

名譽会員の井出源四郎先生からご祝辞をいただいた後、医学部長福田康一郎先生の『法人化を含めた大学の取り組み』と題して、大学の直面する問題、今後の方向についての講演、また信州大学の重松秀一先生の記念講演『再生医学と腎臓病』など充実した総会となった。

懇親会は井出先生の「若さを保つ柔軟体操」の披露などで大いに盛り上がった。

出席会員25名(会員数77名) 土手内守人(昭25)、今井良夫(専26)、原恒雄(昭27)、熊谷信夫(昭28)、夏目隆一(昭28)、菅谷健彦(昭33)、春日建邦(昭34)、横山宏(昭34)、野口徹男(昭34)、片山純男(昭34)、野本高志(昭38)、岡野照美(昭39)、柳沢寛一(昭41)、笠井やすたか(昭42)、宮坂斉(昭42)、内藤威(昭48)、秋谷徹(昭50)、紅谷明(昭51)、松林巖(昭54)、清水俊行(昭56)、栗田純夫(昭59)、伊藤勝彦(金沢大平3)、佐藤徳郎(香川医大平8)、酒井望(平13)

(内藤 威)

安房のはな会

平成15年度安房のはな会総会が、4月25日に、館山市のたてやま夕日海岸ホテルで開催されました。

大学から古関明彦教授をお招きし講演と千葉大学の近況を伺う事にしました。定例総会は本位田泰介会長の挨拶に始まり、例の如く、平成14年度の収支会計報告、監査報告と円滑に進み無事終了致しました。総会終了後、記念撮影を



終え、古関教授の「ほ乳類のクローニングの今後」と題する講演があり、又、大学についてのお話を頂きました。

続いて野原宏前会長の発声で乾杯し、懇親会に入りました。

旨い御馳走と美酒を酌み交し、和気あいあいのうちに夜は更けて行きました。

なお、今総会で、西川義明に代わって関谷信平君が新幹事に推せんされました。出席者

野原宏(専17)、本位田泰介(昭28)、貴家昭而(昭30)、蟹澤晴子(昭32)、原久彌(昭34)、西川義明(昭34)、青木謹(昭36)、関谷信平(昭38)、渡辺信宏(昭39)、佐野元昭(昭43)、中村宏(昭43)、上村公平(昭50)、武内重樹(北里大昭53)、渡辺啓治(昭61)、佐伯雅基(埼玉医大平元)、伊賀寧(聖マリ大平2)、佐藤悟郎(平2)、辻博勝(平2)、稲田邦匡(平3)、天野晋(平3)、三田謙(平3)、徳永進

北陸のはな会

(平5)、熱田智範(平8)(西川義明)

今年度の北陸のはな会は平成15年9月10日に富山市の奥田屋で行われました。蒸し暑い夏が終わり、残暑は厳しいものの、冬を前にしたよい季節に行われました。今回は千葉大学附属病院前院長の伊藤晴夫泌尿器科教授をお招きして開催されました。



会は富山医科薬科大学名誉教授片山喬先生(昭30)の御挨拶に引き続き、富山医科薬科大学名誉教授辻陽

雄先生(昭33)による乾杯の御発声で宴が始まりました。宴が和やかに進む中、伊藤晴夫教授より千葉大学の大学院大学としての現状、独立行政法人化の問題、研修必修化の問題などについて詳しいお話がありました。

この数年医療をめぐる問題にもまして、大学の存在そのもののあり方に激動があり、各人伊藤教授のお話に感慨を持って聞き入りました。その後、おのおのの近況報告、特に寺澤先生より富山県内3国立大学の統合問題、独立行政法人化、〇〇〇獲得などの富山医科薬科大学における現状についてのお話がありました。

不景気な話ばかりではなく、千葉での学生時代の話や、富山医科薬科大学創立当時の苦労話などでおおいに盛り上がり、楽しい歓談のひと時を過ごしました。最後に磯村勝美先生(昭43)のご発声による万歳三唱の後、近々の再会を期して写真撮影後、宴のお開きとなりとなりました。有志は2次会に散っていきました。出席者は以下の通りです。片山喬(昭30)、辻陽雄(昭33)、磯村勝美(昭43)、星山圭鉦(昭44)、寺澤捷年(昭45)、濱崎智仁(昭46)、布施秀樹(昭51)、古

群馬のはな会

谷雄三(昭61)、野沢聡志(平2)(古谷雄三)

平成15年11月8日午後一時より前橋市のマキキュリーホテルに於いて本部から渡辺武るのはな会々々長をお迎えして総会を開催した。初めに平成15年7月に逝去された北村英吾先生(昭12)のご冥福を祈って黙祷を捧げた。次いで沖真澄会長の



挨拶と会務報告、会計報告があり承認された。また今年4月に発刊した群馬のはな会報創刊号は多数の方々からお褒めの言葉を頂戴したとの報告があった。渡辺武新会長のお話は多岐に亘り、アメリカの一国主義、小泉首相の構造改革、独立法人化に伴う国立大学の変革、磯野可一学長が今後目指すもの、またのはな同窓会としてこれから考えるべき諸問題に就いて長時間に亘って言及された。本部と支部との連携の大切さを痛感させられた。

今回は鈴木守教授(群馬寄生中受)(昭39)の群馬大工学長就任祝いも兼ねて居り、先生に登壇していただき、平形先生からお祝いの言葉とお祝いの品が贈呈された。また鈴木教授を是非のはな会賞の候補者に推薦したいとの提案があった。鈴木教授からは群馬大学の法人化や教育学部の埼玉大学との合併など難問が山積しているけれど一つ一つ問題を解

決していきたい、その為にも同窓会諸先生の支援と協力をよろしくとのことだった。

集合写真撮影の後、懇親会に移り、まだ元気で診療をして居られる田中敬明(昭16)先生の御発声で乾杯をする。酒を酌み交わしながら出席者一人一人近況報告をする。和気藹藹のうちに会もお開きになった。

参加者、田中敬明(昭16)、平形義人(昭19)、糸井猛彦(昭22)、沖真澄(昭22)、黒住一昌(昭24)、鹿山徳男(昭29)、根本幸一(昭29)、西村忠雄(昭32)、中田益充(昭35)、黒岩璋光(昭37)、鈴木守(昭39)、本島悌司(昭45)、小林道生(昭48)、小林けい子(昭50)、五十嵐裕章(昭60)、長町幸雄(特別会員、群馬大学名誉教授)。

小林道生、小林けい子両先生は集合写真に入れませんでしたので別掲になりました。



(西村忠雄)

ク ラ ス 会

白 兔 会



(写真は、前列左から橋爪、数馬、木村、後列左から藤村、大村、下山、水間)

も下山君を中心になつかしい思い出やら近況やらで楽しいなごやかな歓談の一時を過ごすことができた。大村は相変わらず油絵に精進しており、100号の大作を展覧会に出品している。下山は長い間頑張って働いてきた診療所を閉院して、今は悠々自適の生活である。藤村は4つの診療所のオーナーであり、医者集めに苦労しているようである。水間は満87歳になったがまだ元気で埼玉県春日部市の病院に通勤していて老人の診療に携わっている。奥様方も皆さん非常に御元気で来年の春の会で又お会いすることを楽しみにしております。

本年秋の白兔会懇親会は、平成15年11月9日(日)に東京駅構内の精養軒で開催したが、寄る年波で体調不良を訴える者が多くなり、又急に都合がつかなくなりました。出席者は僅か7名であった。大村 光、藤村満寿夫、水間正冬のほか、久しぶりに秋田県大曲市から遠路はるばる下山賢次が参加してくれた。又奥様方もいつもより少なく、故数馬欣一君夫人智恵子様、故木村泰三君夫人照子様、故橋爪達男君夫人文字子様の3人のみであった。それで

二 二 二 会

(昭22)

今年度の二二二会は10月5日恒例により新宿プラザホテルで行われた。出席者は級友19名、同伴者2名、未亡人3名の計24名であった。一年ぶりの再会、なかには数年ぶりの参加者もあり、顔を合わせるなり賑やかに話がはずんだ。開会は茂又君の挨拶で行われたが、そ



出席者は次のとおりである。
家本誠一、石郷岡寛、石橋祝、今井力、沖真澄、加瀬幸雄、加藤周、笠川猛、一井正、神田勝夫、神山英明、貫洞一夫妻、清水健三、竹内辰五郎、信藤羊一、茂又真祐、若月美博、鷺田一博、新田実男夫妻、有益安子、内藤恒子、中川雅子
(新田実男)

も ぐ ら 会

(昭23)

昭和19年入学。授業中、米軍機の爆撃を避け地下壕に入るも、何時か必ず龍となりて、天空を飛翔すべし。との故小林康郎君命名のわが「もぐら会(土龍会)」は9月23日、幹事の奈良、岩間両君により、東京駅ステーションホテルで開催された。傘寿前後の級友、杖を頼るも元氣一杯の者、未だ古稀とも見える者、三々五々破顔握手で集いし者は

28名であった。開会に先立ち前年逝去の松下、寺田、高村、鈴木(恒)、長谷川、坂、太田諸君の冥福を祈っての黙祷。乾杯は吉田亮君、病欠者の回復を祈り、お互いの健康を祝し、再会を願って杯をあげた。暫しの間、各テーブル毎の歓談後、司会より少時乍ら各自の思う処、趣味、生き様など述べよ、と。脳梗塞にて意識のあるも顔面麻痺あり、呂律まわらぬも余年の加療にて幸にして平常に復せし感謝の弁あり。書・画・釣に凝るあり。変らず地域医療に頑張るあり。後継ぎくれし伴や娘の手伝いを樂しむあり。老人介護施設で話し相手となる、など多士済済であった。



依頼の『癌とは?』の講演後、受講者より「がんになったら宜しく」の願いに、「なったら宜しくは駄目です、なる前に検診を受けなさい」に「どれ程前に来たら?」「なる前なら前日でも結構ですよ」に対し、彼曰く

「前の日には如何んな症状がありますか?」と問われ、講演者哑然愕然たと言ふ。阿々。
その他級友との語らいの中で、吾等八十年の間に夫々が頭で物や金を考えるより、心で思い感謝する境地に友たちが達し得たと感じ喜び一入の会であった。そして、我らも「其の生や浮かぶが若く、其の死や休が若し」(庄子)の如く、生きるに自由であり囚われず、死に際しては悲嘆なく休息を得るごとく安らかに死の床に、

と願った。
楽しい時は速かに過ぎ、閉会となり、次回の幹事を、海老原大久保両君に依頼し、来年の「もぐら会」を、9月16日(木)とし再会を約して散会した。

出席者(前列左から)吉田亮、木村滋、有賀光、窪谷満雄、杉山静也、吉田充、大久保欽司、板垣修造、多賀谷讓、宮崎隆次
(第二列)萩原弥四郎、上野高次、市川平三郎、柴田鉄郎、西村文夫、吉岡宏三、平岡真、藤崎滋、大津鏡、岩間定夫
(第三列)奈良四郎、工藤興一、海老原恒雄、中島博徳、前田裕、吉田作、伊東和人 他に窪田金次郎 (伊東和人)



昭27
あのはな二七会旅行記

二七会では、春に東京での夕食会を、秋に泊まりがけの旅行会を恒例としているが、今秋は大分への旅行

し、全国八幡社の總本宮と
のことであるが、歴史的には神佛習合の宗教文化であるという。

午後国東半島の諸寺巡りであったが、生憎の雨模様で富貴寺と熊野磨崖佛のみとする。磨崖佛は長い乱石積みで、鋸山中腹の大岩壁に大日如来像と不動明王像が彫られている。体力テストの心算で見事に登攀を完遂したのは、男性4人、女性2人であった。その後、大分市の東洋ホテルに直行した。

夕食は大分市内の料亭「ぶぐ良」で宴会をもった。他県では味わえないというぶぐのフルコースを堪能し、往時の思い出から今日、未来を語り合い、ヒレ酒を痛飲した。

翌16日(日)は、早朝起床して別府温泉の地獄巡りをしてから、快晴の別府湾をあとに湯布院を訪れた。観光シーズンとあって身動きならない混雑のため、民芸村を一巡し、古陶館で有田焼を觀賞、昼食の後は土産を求め、早目に大分空港へ向かい帰路についた。参加者は、小川源太郎、小沢昭司夫妻、渋谷実夫妻、関口和夫妻、鍋谷欣市夫妻、服部了司、廣田和俊夫妻、宮川昭平夫妻の14名。写真

はぶぐ堪能、酩酊の座敷である。
(鍋谷欣市)

昭31
三一會

昭31年3月卒業のクラス会(三一會)は年一回開催されている。今年会場と料理は二の次と考えて、出合いをモットーに交通の便を重点として、平成15年10月25日(土)東京ステーションホテルで実施した。参加者は米国で活躍中の



中沢氏を始め、国内各地から集った43名(うち夫人同伴者6名)であった。宴に先立って、この一年間に物故された前千葉県がんセンター検査部長重田氏の冥福を祈り黙祷を捧げた後午後5時30分を始めた。今回は今春に勲2等瑞宝章の叙勲を受けた北川定謙君のお祝いの会も兼ねていたので会員よりの記念品を贈呈した。会員の叙勲を喜ぶと共に、その年令に達したこと感慨一人であった。宴会は午後8時半まで続き、愉快に時間の経つのも短く感じられた。その間各自の近況報告があり、最近の高齢化社会を反映し各自共に未だ社会の第一線で活躍している会員が多く頼もしく感じられた。

短い時間の会合であったがお互いの無事を確かめ、昔時を懐かしみ、夫々の生き様を知り明日への活力を高め得たと考えている。また来年の再会を約して散会した。
(船橋 茂)

昭32
みふみ会

平成15年10月26日(日)東京駅前の新装成った丸の内ビルディング(丸ビル)の最上階36F「福臨門酒家」で同級会が行われた。今回は今迄と一寸趣を変えて、日曜日の昼食を摂る会とした。場所は全国から集合するの足の便を良くすべく、東京駅とし、全員が古稀を過ぎ、なかには健康を損なった人もおり、仕事にも差し支えないようにと、昼の会とした。

と、定年で大学・病院などを退職した人、退職後の勤めでも定年となりこちらも退職した人、現役で毎日診療を行っている人、子供に助けられて少し活動している人、全く別の分野にのり出している人、年金生活者として余生を送っている人、大病を乗り越え元気で復調している人、古稀を越えてイタリアの音楽を楽しんでいる人、俳句で名を揚げている人、写真を楽しんでいる人、ITに打ち込んでいる人、趣味も多方面に及ん

私達が千葉大学医学部の門を潜ったのは丁度半世紀前であった。84名のうち11名が物故され、73名の現存の中35名が集った。高橋英世会長の挨拶のあと、大阪から来た石川正士君に乾杯の音頭をとってもらい、その後全員からスピーチを頂いた、暫くすると皆昔の顔が浮び上り話は弾み、元気さは昔と少しも変りなくアツという間に時間が経ってしまった。会員の近況をまとめる



でいる。
これからは、この会をどういう風に行うか、年に何回、いつ、何処でやるかなど、会長から話題が出された。尚次年度は瀬田・仙波・蟹沢・水原君が幹事に選出された。

出席者

明石康三・有馬道雄・飯塚正章・石川正士・今井兆佳・岩瀬亀夫・加藤嘉彦・柏木登・蟹沢晴子・神田收茲・川口幸夫・川嶋裕・佐々木邦幸・瀬田勝雄・仙波恒雄・高倉永政・高橋柳子・高橋英世・竹内達・水流英雄・戸川清・夏目隆一・西村宏・布川武男・野口昭義・平嶋毅・福田陽・福富久之・藤田眞・藤本茂・堀敬明・前田昌利・矢野和之・横尾敦夫・吉田豊

(福田 陽)

山 紫 会

(昭34)

15年度(昭和34年卒)は、山梨(赤星)・静岡(永井、判野、松原)の幹事で11月8日伊豆大仁温泉で開催されました。

卒業後44年クラスの半数以上が古希を迎える節目のクラス会になり、夫妻での参加の6組を含め総勢24名が大仁ホテルに参集再会を



喜び合いました。

宴会の席では昨年は各自の病気体験や病で不参加の人の話など歳相応の話が出ましたが、今年はそのような話題や某君のように焼津での開業をやめ、東京に出て趣味の生活を送っているといううらやましい話も紹介されました。44年振り幹事役参加の判野君も元氣。現役で生き生きやっている仲間もいて多様な人生模様様の会でした。

一次会のあとは最近麻雀

を覚え麻雀にのめり込んでいます。

女史の御誘いで麻雀をやる人と、酒の飲み足りない人は幹事部屋での二次会に分かれ、幹事部屋で遅くまで談笑、遅く到着した植田君を迎え又一段とアルコールが進みました。

翌日は雨の予報は穏やかなくもり空、ホテル前にて記念撮影後、西伊豆観光組、中伊豆歴史探勝組、ゴルフ組に分かれ一日を楽しみました。

ゴルフは2組原澤兄が全国大会出場選手の貫禄で優勝。

来年は又千葉の幹事と決まりました。クラス会に出席できることは元気な人の特権で、健康でいることの有難さが身にしみたクラス会になりました。

(松原 保)

参加者：赤星至朗、東紀男、植田伸夫、遠藤幸男、塩川喜之御夫妻、清水順三郎・精子夫妻、高橋功、判野恒雄、永井順、長尾佳子、野口徹男御夫妻、原沢寿三男、飯田静夫・暢子御夫妻、松本博雄、谷嶋俊雄、矢野柁

多御夫妻、松原保御夫妻

三 六 会

(昭36)

昭和36年卒業の我がクラス会は平成15年10月11日(土) 13日(月)に高知県において開催された。今年には体育の日を含む三連休を利用して観光かねた泊3日の大旅行となった。平成15年9月をもって高知医大副学長を退官された小越章平先生が企画、立案、実行のすべてを担当され、その能力の高さをまたまた示された。今年には20名が旅行組、7名がゴルフ組であったが、全部で10組が夫婦同伴で参加した。

最初に空港より直行のバスを仕立てて桂浜観光を行ったが、折からの秋雨前線停滞のために、台風並みの海の荒れ方で、土佐の豪快な海と浪を觀賞した。小越先生の指令で前日にクリーニングしたという坂本竜馬像もわれわれを迎えてくれた。

この夜の泊まりのホテル日航高知に荷物を置き、間もなく同窓会パーティーのため城西館に向かった。城西館は明治7年の創業以来、皇族方の御定宿として使われてきた歴史をもつこの地で最も由緒ある宿、

そして会議場とされているところである。計画通り、最初に全員の写真撮影が行われ(写真)、7時には宴会が始まった。まず幹事の植田先生から、歓迎の辞が述べられた。本会の趣旨説明があり、前開幕張りの会において、今回の場所と期日は基本的には絶対に動かさないことにしようという無理な条件をつけたために、幹事のいろいろな事情にもかかわらず予定通りに実行されたとお話でした。幹事から宿の歴史、高知の歴史、お料理の特色などなど明快な説明があり、乾杯は何十年ぶりに出席された稲葉先生より発声され、にぎやかに始まった。

かつおのたたき、まぐろ、さばの姿寿司、伊勢えびなどを主にした豪快な皿鉢料理が並び、さまざまな珍味とともに宴卓を盛り上げた。各人の近況報告のスピーチがあり、座が大いに盛り上がったが、すべての同窓生がすでに65歳を過ぎていて現在、既に古希を祝った友も多く、長寿を全うするのはこれからの養生が勝負というような結論になったように思う。

本年逝去された村上秀瑛先生への黙祷をささげ、来年の再会を誓って宴を終えた。

た。なお来年度同窓会は長谷川夫妻を幹事として千葉において行われる予定である。

佐くろしお鉄道で高知に戻り空羽羽田空港にむけて荒れ模様空を飛んだ。

(大川治夫)

さて、翌朝12日、ゴルフ組は7:30に出発、観光組は8:30出発でバスでの楽しく長い一日が始まった。にぎやかなバスガイド嬢、添乗員の案内で2回の休憩停車だけで、約4時間をかけ、一気に中村市を経て四万十川に到った。屋形船で川下りをしながら、鮎、うなぎ、ぼら、河えびなどなど天然ものの料理を楽しんだ。時折の強烈な雨にもかかわらず、ゆったりと流れる四万十川の水は澄んだもので、流量も増えた様にも見えない雄大な流れであった。土佐清水市の足摺岬は強風が吹き荒れ、巨大な波のため予定の海辺での観光はできなかったが、ジョン・万次郎記念館、第38霊場金剛福寺を訪問した。雄大な海の姿を楽しんだことは忘れがたいことであった。

温泉宿での一泊があり、13日に土



一方、ゴルフ組は、最初の10名参加が7名に減り、寂しくなったが、12日は黒潮カントリークラブ、13日は土佐CCと、2日続けてゴルフを楽しんだ。12日は、スタートしようとしたら土砂降りの雨で、一旦帰ろうとしたのだが、折角高知まで来たのだから少しでもやろうじゃないかの声があり、待っていた所

意外に早く雨がやみスター
トした。さすがに来年5月
日本プロゴルフ選手権が開
催されるといふゴルフ場だ
けあって、水はけが良く土
砂降りだった数10分前を忘
れさせる程であった。

高知で楽しく過ごせたの
も小越幹事の細かな配慮の
賜物で、感謝・感謝の3日
間であった。

(青木 謹)

出席者

(夫人同伴)

淵上隆・大川治夫・国安芳
夫・稲葉和也・谷合明・小
野沢君夫・前嶋清・小越章
平・山崎修造・長谷川修司・
幸子

(单身)

福島訓子・関幸雄・黒田健
昭・近藤省三・小幡五郎・
末吉貫爾・青木謹



平成15年10月12日(日)
夕刻、有楽町の帝国ホテル
みやびの間において、『52
会』の同期会兼総会が開催
された。今回も準備のため
に一年前から、千葉市在
住の会員を中心とした「幹
事会」が数回にわたっても
たれ、開催日・会場・当日
の企画などについて案がね
られた。尤も「幹事会」は

定期的な懇親会を兼ねたも
のでもある。

開催日については、土曜
日も診療業務に携っている
会員も少くないことから、
月曜日が休日となる日曜日
を念頭に置いて選定した。

開催地については前回と同
様にやや紛糾した。即ち、
千葉開催派と東京開催派と
に分かれた。結局今回も、

地方からの参加者の便宜を
考慮して、東京開催に落ち
着いた。開催直前の10月4
日、市内の「春の家」で
「幹事会」が開かれ、10名
が出席して最終の確認作業
が行われた。

当日は、代表幹事古川斎
氏(古川医院)による開会
宣言の後、高田俊一氏(高
田整形外科)の音頭で乾杯
が行われ、鈴木孝雄氏(最
成病院)の司会で会が進行
した。今回の企画である、

(1)「大学病院の独立行政法
人と研修医義務化」につい
て、寺井勝氏(小児科助教
授)と、宇田川晃一氏(形
成外科講師)が、(2)「企業
と連携したベンチャー・ピ
ジネスの起業を中心とした
話題」について、五十嵐辰
男氏(フロンティアメディ
カル工学研究開発センター
教授)が、解説を行った。
又、今回は診療上有益な
会合でもあるようにとの企



図から、日本脳神経血管内
治療学会前会長兵頭明夫氏
(琉球大学脳神経外科助教
授)によって、「切らずに
なおす脳動脈瘤」と題した
ミニ・レクチャーが、スラ
イドを用いて行われた(別
稿掲載)。レクチャー開始
時には、出席者が一斉にス
クリーンの周囲に移動し、
また簡単な質疑応答も行わ
れ、同期会というよりも一

瞬學術集会の
様な趣を呈し
た。

講演終了後、
各自の近況報
告が行われた。
久し振りに同
期生の集りに
出席した青柳
栄一氏(千葉
刑務所医務官
は、近年報道
された刑務所
における不祥
事などに鑑み
て、その勤務
の苦労話など
を、また司会
の鈴木孝雄氏
は、前年第五
子が誕生し、
国の少子化対
策に微力なが
らも寄与して
いることを披
露した。稲田

晴生氏(中伊豆リハビリテー
ションセンター)は、施設
の概要について紹介したが、
本日の出席者の中にも、近
いうちにお世話して差し上
げる方も出てくると思いま
すというリアルな発言には、
一同些かシュンとした。

会も押し切り、山縣正庸氏
(千葉労災病院整形外科)
から、「52会幹事会」の活
動状況の報告と、次回の総

会開催の時期について提言
が行われた。次回は『卒後
30周年記念』と銘打って、
4年後に開催されることが
採択された。

最後に記念撮影を行った
後、予定時間を大幅に超過
して無事終了した。終了後
直ちに、17階のレインボー
ホールの夜景を移して、丸
の内の夜景を楽しみながら
2次会がもたれた。今回も
前回と同様に総会出席者の
ほぼ全員が参加した。出席
者の多くが、現在診療施設・
教育機関・医師会等で重責
を荷う立場にあり、苦労話
を、また司会
の鈴木孝雄氏
は、前年第五
子が誕生し、
国の少子化対
策に微力なが
らも寄与して
いることを披
露した。稲田

括弧内は旧姓
青柳栄一、五十嵐辰男、
石出猛史、磯部啓二郎、稲
田晴生、今井克巳、今泉照
恵、宇梶晴康、宇田川晃一、
遠藤文夫、太田義章、大竹
喜雄、奥野(石井)妙子、
尾崎正彦、笠井(中島)み
さ子、木村正幸、久保田浩
一、小林彰、小林純、小林
敏生、椎原秀茂、鈴木孝雄、
鈴木久史、須田啓一、須田
純夫、高田俊一、高橋敏信、
高山順、田中幹雄、塚田
(村木)純子、寺井勝、中
澤肇、中村(高杉)郁子、

中山大典、林田和也、兵頭
明夫、福田利男、古川斎、
榎鏡年清、升田吉雄、松岡
明、松前孝幸、松本明石、
水谷正彦、湊 明、宮尾陽
一、村野(水谷)早苗、山
縣正庸、山川久美、四元徹
志、寄藤和彦

以下に『52会』総会で
行われた兵頭氏の講演の抄録
を掲載する。兵頭氏は臨床
経験豊かな脳神経外科医で
ある。同窓会々員諸氏が日
常診療に携るうえで、参考
になれば幸いである。
(石出猛史)

「52会」同期会総会講演抄録
切らずに治す脳動脈瘤の治療

琉球大学医学部脳神経外科
兵頭 明夫(昭52)

はじめに
血管内治療とは、経皮的
に、血管の中をアクセスルー
トとして用いてカテーテル
を病変部へと導入し、診断
あるいは治療を行うことで
あり、血管内治療には血管
病変を閉塞させて治療する
塞栓術や、狭窄、閉塞した
血管を拡張しない再開通さ
せる血行再建術がある。脳
神経疾患に対しての本法は
脳神経血管内治療、脳神経
血管内手術、血管内脳神経
外科(intravascular neu-
rosurgery, interventional
neuro-radiology)などと
よばれており、開頭術を中
心とした脳神経外科的手術
と比較するとはるかに低侵
襲であり、多くの利点を有
している。

脳神経血管内治療は、古
くは一九七〇年から一九八〇
年代にかけて細いカテーテ
ルの先端に風船をつけたパ
ルーンカテーテルという道
具を用いて、通常の脳神経
外科的手術の困難な脳動脈
瘤や脳動脈静脈奇形、頸動脈
海綿静脈洞瘻等に対して行
われていたが、特殊な技術
を持ち合わせたパイオニア
によって行われていたに過
ぎず、スタンダードな治療
の一つとして広く行われる
わけではなかった。しかし、
一九八〇年代から現在に至る
までのdigital subtraction
angiography(DSA、
画像をコンピュータでデジ
タル化し、骨の部分を除い
たり解像度を良くしたもの)
の開発及び改良、一九八〇
年代後半から現在に至るま
での、頭蓋内脳血管末梢ま

たいと思つ。

文献

- (1) Guglielmi G, Vinuela F, Sepetka I et al: Electrothrombosis of saccular aneurysms via endovascular approach. Part 1: Electrochemical basis, technique, and experimental results. J Neurosurg 1991; 75: 1-7
- (2) Guglielmi G, Vinuela F, Dion J et al: Electrothrombosis of saccular aneurysms via endovascular approach Part 2: Preliminary clinical experience. J Neurosurg 1991; 75: 8-14
- (3) 兵頭明夫、根本繁編：GDCを用いた脳動脈瘤血管内手術、医学書院 東京、一九九九
- (4) International Subarachnoid Aneurysm Trial (ISAT) Collaborative Group: International Subarachnoid Aneurysm Trial (ISAT) of neurosurgical clipping versus endovascular coiling in 2143 patients with ruptured intracranial aneurysms: a randomised trial. Lancet 2002; 360: 1267-74

セミナー事業試行アンケート集計結果

前号で報告しました平成15年度試行のセミナー事業の際、参加者にアンケートとして記載していただいたセミナーに関する質疑や感想などについて、回収したものの全てをそのまま掲載します。アンケートにお答えいただいた先生方には、本誌上にて感謝申し上げます。 同窓会理事 鈴木信夫(昭47)

SARSとバイオテロを

考える集い (5/31)

動機

- ・ 仕事場が中央でテロの危機感がある。
- ・ 外国人の診療もあるし、外国から帰国あるいは一時帰国の健康診断ももっているため感染症に敏感になっていた。
- ・ 興味ある題であったから
- ・ 集中的に情報を得る機会が少ないので。
- ・ 案内をもらったから。
- ・ SARS について無知ではつられなごの。
- ・ SARS の疑いのある患者診療に関わっているため上司のすすめが有り。
- ・ 最近の話題でもあったため。
- ・ 時宜を得た企画に魅力を感じた。
- ・ 感染症対策医院に務めているため。
- ・ 出張病院での SARS とバイオテロ対策のための情

報收拾のため。

- ・ 業務の一つとして。
- ・ 薬局・医療機関から SARS についての質問があるため。
- ・ SARS 患者の受け入れ病院に指定されているから。
- ・ SARS の疑いのある患者の診察現場に携わっているため。
- ・ 東京で開催され、参加しやすく、SARS に興味があったため。
- ・ SARS に関する情報を得て、中国等に支社のある企業の役に立てるようにするため。
- ・ 公衆衛生学の社会実習で SARS を調べているので参加した。
- ・ テーマがよかった。
- ・ 本学の将来につき知識を得たいため。
- ・ 初めての試みなので、どのような展開か期待して。
- ・ バイオテロ、SARS 等に対する現代的対応とその基礎的知識を得たいと考えて。

質疑

- ・ SARS に関心があった。
- ・ 公立病院内科(呼吸器)に勤務しており、SARS 協力病院になることが決定したので。
- ・ 会場の場所が便利。
- ・ マスコミ情報以上のものを学問的に知りたい。
- ・ ステロイド、リビビリンの評価は？
- ・ 冬期に入ると大発生するとニュースにあったが如何。
- ・ 危機管理は、二次・三次病院として対策を考えていると思うが、一次的に一般患者の中に患者がいた場合の対応は考えているか。
- ・ SARS 対策の今後。
- ・ Biopsy Autopsy の際に留意すべき点は。
- ・ CJD・HIV に準ずる対処法でよいか。
- ・ SARS の疑いのある患者は玄関払いしてもよいとのことですが、診療拒否にならないか。
- ・ SARS はインフルエンザのように寒くなると広がる可能性が高いか。
- ・ 各種マスクのろ過効果は。
- ・ ウイルスに対する消毒(70%エタノール)は有効か。
- ・ N95のマスクで大丈夫か。
- ・ ウイルスの専門家が教える理想の防護とは。

感想

- ・ SARS に関してなど治療法・予防法など今後詳しくわかってきたら次の会などで教えてもらえらるシステムができないか。
- ・ 短時間に濃縮されていてよかった。
- ・ 時宜を得た企画。
- ・ わかりやすく参考になった。
- ・ 大成功。
- ・ 会場の案内が不十分、表示がわかりにくかった。
- ・ 大変良く organize されていた。
- ・ 千葉大学の取り組み姿勢がよくわかった。
- ・ 都内の開催でよかった。
- ・ 今後も開催してほしい。
- ・ OHP スライドの字が小さく、薄くて読めない。
- ・ 時間が短く、3時間にしてほしい。
- ・ 駅前大学の発展を希望
- ・ 開催は水・土・日曜日を希望
- ・ 有意義だった。
- ・ SARS に対する千葉大の対応などがよくわかり、興味深かった。
- ・ バイオテロに関する話がほとんどなく、SARS に絞ったほうが良かったのではないか。
- ・ 大学の体制について知ることができてよかった。
- ・ 内容があり、学習になった。

た。

- ・ 話された資料の copy があっても良いのではないか。
- ・ 緊急時対応システムと地域連携の中に保健所も入っていることを知らなかったが、情報を得ることができて業務に生かす事ができる。
- ・ 参考になったので、今後このような会を続けてほしい。
- ・ 同窓の先生方への周知期間が短すぎた。
- ・ 開業医も出席できる時間帯(土曜午後3時以降)にして欲しい。
- ・ 今後取り上げたいテーマ
- ・ 代替医療。
- ・ DRG。
- ・ 先端医学のトピックス解説。
- ・ 化学物質中毒。
- ・ 一般開業医向け高度先進医療。
- ・ 遺伝子における倫理問題。
- ・ ウェストナイルウイルス。
- ・ 地域医療。
- ・ これからの医療経済。
- ・ 漢方。
- ・ 時事解説(病気の本体)。
- ・ 遺伝子工学を利用した分析法(病因を調べるにあつた)。
- ・ 肝炎。
- ・ がん。
- ・ 心臓病。
- ・ 国民病の up to date の

講演会。

- ・ 糖尿病の近い未来(画期的な薬剤ができるのか)。
- ・ インフルエンザ、エイズ。
- ・ トピックになったものの基礎的解析、対応の解説的講座。
- ・ 天然痘。
- ・ 高度化する現場での対応について。

感染症危機管理セミナー

第一回 (7/18)

集いの感想

- ・ 参考になり今後も続けていただきたい。
- ・ 時宜を得たよい企画である。
- ・ 分かりやすく大変参考になりました。
- ・ 大がかりな宣伝がなかったのに大勢集まり大成功であったと思う。
- ・ SARS に対する千葉大の対応などはよくわかり興味深く思いました。
- ・ 駅前大学の発展希望。
- ・ 会場の案内が不十分でした。
- ・ 短時間に濃縮してお伝え下さったことに感謝します。
- ・ 土、日又は水曜日に開催いただけるとありがたいです。
- ・ 今後の保健所の業務にかせたらよいと思う。
- ・ スライドが薄くて細字で

読めない。工夫を。
・ ゆっくりと3時間のコースでもよいのではないか。

今後取り上げてもらいたいテーマは

- ・ 代替医療。
- ・ 一般開業医が少しでも理解できるような高度先進医療に関して。
- ・ 天然痘。
- ・ 遺伝子における倫理問題について。
- ・ ウエストナイルウイルス。
- ・ これからの医療経済。
- ・ 搬送方法についても知りたい(疑い例を含め)。
- ・ インフルエンザ、エイズ。
- ・ 結核予防法の改正によりBCGがとりやめになったが大丈夫なのだろうか。
- ・ 糖尿病に近い未来。
- ・ 高度化する現場での対応について。
- ・ 漢方。

感染症危機管理セミナー 第二回 (7/26)

集会の感想

- ・ SARSは呼吸不全という症状を治せばウィルスを消滅させなくとも死なないという点が興味深かった。
- ・ 集中治療の話はよかった。
- ・ 大学の研究や様々な機関としての役割などをするこ

・ スライドもわかりやすく理解の助けとなった。

今後取り上げてもらいたいテーマ

- ・ 都道府県、市とのネットワークとの関連にて福祉保健医療の関係者に対し、幅広く伝えて下さればよいと思う。

感染症危機管理セミナー 第四回 (7/31)

集会の感想

- ・ 具体的な予防方法、殺菌方法等を座学だけでなく実技を行っていただきたいと思えます。最近のベクトルムに対してズーノーシスの不安があります。ズーノーシスに関する講座を開催して頂きたい。
- ・ SARS等院内感染についてもっと詳しく知りたい。
- ・ 学校の養護教諭として働いていますが、学校は危機管理についての意識が低いのでいざというとき困らないようにという思いで参加しました。
- ・ 小中学校の「保健体育」授業くらいでしか、生きるからだについて学ぶ時間がない。しかも中途半端。今回のように自分が患者になる前に病院を見学し、病気になるについての全体イメージを

学ぶチャンスはすべての国民に与えられるべきだと思う。

大学の開放は素晴らしいことだと思います。是非このような機会を増やしていただければと思います。次回希望するテーマは「災害発生時における救急医療体制」是非学びたいです。宜しくお願いします。

- ・ 医学危機管理問題についてもっと多くの方々に講座受講する場所を提供していただければうれしいことです。
- ・ 私は学生ですが、自分の学部、学科の授業でこうした医療の実際を見れる機会は少なく大変興味深く有意義なものでした。また、勉強会を開くときには大学の掲示板に掲載してください。
- ・ 今回の内容についてはやや難しかったと思う。スケジュールについてもやや強行軍ではなかったかと思う。トップレベルの各機関を見学できるのは大変興味深いです。又、教授クラスの講義が聞けるのもよいチャンスだ。企業向けにその企業につながる深いテーマで講義していただけると面白いと思う。
- ・ 医学生に対して技術、知識の向上は望みますが、患者さんは弱者なのだという

認識をしっかり持つように指導して頂きたい。能力は不要です。

- ・ コーディネーターとしての任務はまだまだ責務には荷が重いものです。今後も研修の機会を設けていただきたいと思えます。
- ・ 一方向になりがちな情報や知識を相互に確認しながら学ぶことができ非常に有意義でした。鈴木先生のようにも多方面にパイプをもっておられかつ全体的に視野を広げていらっしゃる方が仲間役をしていただけるとスムーズに行われると思えます。
- ・ 私は、栄養学の研究者でメディカルフードカウンセラーをしております。日常の中で病院に検査に行く程度ではないが、自分の健康状態が相談したいという方が多くいらっしゃいます。私のような医師でなくても血液画像分析はできると聞いています。是非、この血液画像分析士の資格が取得できるセミナーをお願いいたします。
- ・ 単発ではなく、シリーズで講義を組んでほしい。医学基礎講座を作してほしい。もう少し長い期間講座を受けてみたい。
- ・ お金のかからない医療、

福祉を。ドクターの横柄な態度改善。

医学教育・卒後教育を紹介する会 (8/5)

- ・ 地域医師会とのネットワークは私たちにも一般の人にもわかってないのではないのか。知る機会は？

・ 森先生の話で「知らないことが罪」という言葉を聞いて中途半端な人は医師という責任の重い職業にはつけないのだな感じた。

- ・ 生坂先生の話は高校生の自分にも人間の体のメカニズムがわかりやすくと面白かった。医学部への夢がふくらんだ。
- ・ 医学部ではどのような教育がされているのかは今まで全く知らなかったもので、医学部への進学を考えているものにとってはとても参考になりました。また、医師として医学部生として、どのような人材がもたらされているのかといった話としても、とても参考になりました。これからも、年に数回、このような会が行われると、受験者としての励みになった。
- ・ 是非このような会を続けてほしい。
- ・ 医学部教育の中で解剖後からが本当に真剣に学び始めると聞いておりましたが、本日の講義を受け実感できました。現在三年に所属していますが、一・二年の大変暇な時間を解剖学の期間にまわせないものかと思いましたが、受験希望者も参加してよいとのことでしたが、文章から行ってよいのかと迷った方も多かったと思

編集委員会

からのお願い

寄稿する皆様へ

お蔭様で、本会報への寄稿文は毎号多数寄せられております。編集委員会においては、誤認事項などが無い記事となるよう校正の上、寄稿文を可能な限り掲載しております。

つきましては、寄稿の際、次の点にご配慮下さい。記載内容が同窓会員共通の話題のものであり、一原稿当たり約半面(1500字程度)以内とするようお願い致します。人名については、フルネーム書きとして氏名共にご記入してください。また、専門用語などの略号のみの記載は避けて下さい。

第28回あのはな美術展開催



平成15年10月7日から13日まで7日間、東京、銀座のギャラリーヒマワリで開催された。本年度より同窓会の事業に組み込まれて、賛助金が交付されることになりました。出品者は20名、不出品者は4名でした。展示の作品は書、パステル、水彩及び油彩33点で、パランスよく配され、多くの来会者から会場の明るい感じと作品の質の向上をききましました。11日午後2時会場に集合し、新入会の26卒の石井邦夫、堀越俊男さんと40卒の漆原晶人さんが紹介さ

れました。続いて恒例の合評会にはいり、製作の苦労話や多角的な批評を交換して時の過ぎるのを忘れ、懇親会場の資生堂到着は5時過ぎになりました。本展の将来について会員からさまざまな意見や要望がありました。大学の美術部と言うべき白鯨社が昭和初期に発足して、28年前そのOBが主体となって現在の態勢をほぼ継続して来ました。会員の大半は診療、研究、医師会事業等苛酷ともいえる日常を送っています。その余暇、芸術に対する夢捨て難く創造にはげんでいます。同窓会会員で同好の方は下記へご連絡の上、御出品下さるようお願い申しあげます。

氏名 年次
山川 晋吾 24 ローマの広場にて 15 P 未来10 P
齋藤 英一 16 パステル 10号
大木 勲 38 平磯海岸 10 F
長尾 透 16 横浜赤レンガ倉庫 10 F
島田 哲男 41 パステル 4号 6号
大村 光 17 人物 12号 8号
柴崎 晃 28 静物 part I F 4 静物 part II F 3
石谷 治彦 24 水彩 花 2003春 2003夏 10号
神山 英明 22 花と器 10 F
齋藤 宗寿 16 廃屋(アイルランド) 10 P
酒井 忠昭 42 入江 20 F 樹林 8 F
山口 庚児 31 ベルギーの風物 30 F
吉川 広和 40 輪島の朝市から 30号 水彩
川村 孝子 36 憩う 15号 インドの女子学生 20号
野口 真理 40 ニース海岸 30号
今井 力 22 サンモリッツ湖の夜明け 10号
加瀬 幸雄 22 和気(軸) 晩夏(額) 8号
石井 邦夫 26 黄色い服の人形 8号 6月の調公園 8号
井上 通 24 文楽人形 10号 女優原節子 10号
榎本 貴夫 47 アラン島 10号変形 春の小川 3号
不出品 宮下久夫38 漆畑昌人40 堀越俊男26
長谷川鎮雄35

〒169-00075
東京都新宿区
高田馬場1-25-29
石谷医院内
03-3200-0078

Fax 03-3200-0253
E-mail histami@sjk.tokyo.ac.jp

二〇〇三年 第28回あのはな美術展出品目録

Table with 3 columns: Name, Year, and Exhibition Title. Lists artists and their works, including titles like 'ローマの広場にて', '花と器', '入江', etc.

あのはな同窓会臨時常任理事会議事要旨

日時 平成15年7月24日 (木) 午後7時〜9時
場所 船橋グランドホテル

出席者 秋葉哲生、伊豫雅臣、大井利夫、大藤正雄、大浜博利、小幡 裕、木内政寛、栗原伸夫、佐藤通、鈴木信夫、田中 光、野村 実、藤山嘉信、道永麻理、森 豊、渡辺武、済陽高穂

渡辺武会長より、6月の総会に出席できなかったので、新執行部の発足を円滑に行うために本会を開催すると報告された。

議題 一、活性化：これまでの検討

討の経緯について、会社設立のことも含めて前向きに検討することが確認された。

二、本会のあり方については、IT化の問題、首都圏あのはな会を中心とした活動など、広汎な話題について意見交換が行われた。

三、今後の理事会・四金会の開催予定は、例年通りとすることが確認された。四金会のあり方については、今後検討することとした。

亥鼻祭の資金援助については、30万円の追加予算措置することが提案された。

三、叙勲者・受章者・昇任者の四金会招待
滝口理事より提案があり承認された。

四、学外研究助成選考
木内参与より選考結果の説明があり、3件の助成案が承認された。

五、あのはな同窓会賞選考委員改選
木内参与より、一部委員の任期満了に伴う委員改選について提案があり、承認された。

六、将来検討委員会改組
鈴木理事より、将来検討委員会を1部(企画)、2部(運営)の二部に改組する旨提案があり、承認された。

報告事項
一、会員ニーズ調査
白澤理事より、アンケート等による会員ニーズの調

二、臨時常任理事会議事録
より御挨拶と新役員の紹介があった。

議案
一、臨時常任理事会議事録

出席者 伊藤晴夫、岩間章介、大井利夫、大藤正雄、大浜博利、沖真澄、小幡裕、加部恒雄、木内政寛

平成15年度第2回常任理事会議事要旨

日時 平成15年11月26日 (水) 午後3時30分〜5時30分
場所 千葉スカイウインドウズ東天紅(セントシティタワー22階)

出席者 伊藤晴夫、岩間章介、大井利夫、大藤正雄、大浜博利、沖真澄、小幡裕、加部恒雄、木内政寛

議案
一、臨時常任理事会議事録

報告事項
一、会員ニーズ調査
白澤理事より、アンケート等による会員ニーズの調

二、臨時常任理事会議事録
より御挨拶と新役員の紹介があった。

議案
一、臨時常任理事会議事録

の承認
鈴木理事より、7月24日開催の臨時常任理事会の議事録について説明があり、承認された。今後、常任理事会等の議事録の様式について、検討することとした。

二、役員交代、会務責任者の選出
鈴木理事より、役員交代と、庶務、会計、事業の会務の責任者、副責任者の選出について提案があり、承認された。

三、叙勲者・受章者・昇任者の四金会招待
滝口理事より提案があり承認された。

四、学外研究助成選考
木内参与より選考結果の説明があり、3件の助成案が承認された。

五、あのはな同窓会賞選考委員改選
木内参与より、一部委員の任期満了に伴う委員改選について提案があり、承認された。

六、将来検討委員会改組
鈴木理事より、将来検討委員会を1部(企画)、2部(運営)の二部に改組する旨提案があり、承認された。

報告事項
一、会員ニーズ調査
白澤理事より、アンケート等による会員ニーズの調

二、臨時常任理事会議事録
より御挨拶と新役員の紹介があった。

議案
一、臨時常任理事会議事録

報告事項
一、会員ニーズ調査
白澤理事より、アンケート等による会員ニーズの調

二、臨時常任理事会議事録
より御挨拶と新役員の紹介があった。

議案
一、臨時常任理事会議事録

報告事項
一、会員ニーズ調査
白澤理事より、アンケート等による会員ニーズの調

二、臨時常任理事会議事録
より御挨拶と新役員の紹介があった。

議案
一、臨時常任理事会議事録

報告事項
一、会員ニーズ調査
白澤理事より、アンケート等による会員ニーズの調

二、臨時常任理事会議事録
より御挨拶と新役員の紹介があった。

議案
一、臨時常任理事会議事録

査結果と、それに基づく将来ビジョンについて、報告があった。

二、セミナー開催

鈴木理事より、SARS対策、医学部紹介等のセミナー事業執行結果について報告があった。

三、首都圏のいな会(仮称)

済陽理事より、9月27日に開催した同会について、報告があった。

四、予算執行状況(中間報告)

税所理事より、平成15年度予算執行状況、決算予測について報告があった。

五、同窓会報関係

白澤理事より、1月刊行予定の同窓会報について、報告があった。

四金会

引き続き同所で四金会が行われた。

四金会開催日のお知らせ

平成16年2月25日(水) 平成16年4月28日(水)

同窓会の方々の出席をお願い致します。会費は3,000円です。

連絡先 千葉大学

電話

043-202-3750

いずれも午後5時30分より、千葉スカイウインドウズ東天紅(千葉駅前そごう西隣りセントィタワー22階)において開催致します。

随想

「せとぎり」訪米す

中澤 弘(昭31)

ボルチモア市在住 元ボルチモア市医師会々長

アメリカ東部のニューポートは黒船来航で日本に馴染みの深いマシュー・ペリー提督の生誕地である。海上自衛隊の派米訓練を西海岸沖で終えた「せとぎり」が、その日米親条約締結百五十周年を記念してパナマを廻りニューポートでの表敬訪問を果し、帰国途上、ボルチモアに寄港することになった。これは野球のカーブボールだったのだろうか。近くのワシントンには大使を始め多数の日米政府関係者(軍関係を含めて)や日本人が多く、この三千五百五十トンの日本艦をポトマック河畔に浮べて一と夢見た人が少なくなかったのに何せ川底が浅すぎて船が入らない。そこで私達のボルチモアと相成った次第である。ボルチモアはチェサピーク湾に面して立派な港があり、姉妹都市州の契りがもう四半世紀に及んで日本との市民交流が続いている処である。「せとぎり」はペリーが来日したその浦賀のドック

クで約十五年前に作られ、二百二十人ものクルーが乗る立派に日本を代表する護衛艦である。因みに、ペリーの旗艦「サスケハナ」号の名はボルチモアの東北を流れる大河からとったものである(ミシシッピとかポトマックとか当時の船は州より河の名前が多かった)。またかつての日米戦争で天王山といわれたソロモン諸島の沖合では日本駆逐艦が深夜ジョン・F・ケネディ指揮するP・Tボートと衝突し、ケネディは海中にほうり出され、数人の乗組員達と泳いで近くの島に上り、九死に一生を得た。歴史は何時、何を仕出すか判らない。私達市民は「せとぎり」の訪市を心よく歓迎した。ボルチモア市長は私に当日市長代理として艦をお迎えし、式典で隊司令、艦長始めクルーに御挨拶して欲しいというのである。横須賀米海軍病院インスターンを終え、その儘ボルチモアに着いてから四十五年目、

今浦島の私は、この上なき光栄を快諾した。さて当日は夜中の小雨から曇にかわりその間を縫って旭日が浮び上り、艦がボツンと遠くに見え次第に大きな全映を顯わした頃は、真に「あざぎり」から「せとぎり」に変わって感無量、涙が出た。「おい、日本から船が来たぞう」という叫びが自然に湧き上って来るのが押えられなかった。その式典では、ボルチモア市はこの七月二十三日を以って今後、市の日米平和記念日とするという市長のメッセージをお伝えした。偶々その日のランチをワシントンからいらした阿川直之公使と艦長室でいただいたが、さすが公使の船や海に関する知識の豊富さに時を忘れる程楽しかった。翌日は市民への艦内公開が行われクルーメンバーの真面目な態度と親切な説明に満足した様で本当に良かったと思う。

その夜は艦上で加藤良三大使御夫妻、古荘海上幕僚長御夫妻主催のパーティが行われ、ワシントンから米政府軍関係の要人が参加され、私達共々、心から百五十年記念式典を祝賀出来た。ペリーもあの時、日米関係が曲折を経ながらもこの様な形で、この様な処で綿々と続けられているとは想像もしなかつたらうと思う。私達は心して平和の有難さをかみしめ、その為の努力を惜しんでほならないことを改めて痛感したのである。



編集後記

この号が、皆様のお手元に届くころには、少々季節はずれになるかもしれませんが、先ずは謹んで新年の挨拶を申し上げます。今年が、皆様にとってより一層の発展と飛躍の一年となりますことを心より祈念申し上げます。大学も、法人化の年を迎え、今までは異なる運営を余儀無くされつつあります。今までの護送船団方式から一転して、大学のアイデンティティーが強く問われるようになりました。すなわち、そこに含まれる人的資源の価値が大学の力として直接表現されます。結果として、同窓生の交流の場となりうる同窓会組織は、今までは比較すべくもなく重要なものとなって参りました。のいな同窓会報は、そのような交流のための重要なメディアの一つであります。千葉大学医学部が本来有しているポテンシャルを發揮していくためにも、同窓の諸先生がこの会報を様々な階層性で利用していただけるよう、有効なプラットフォームを提供していきたいと考えております。

のいな同窓会への寄附

昭八会(昭12卒)

八万七千円

(古関明彦・昭61)